

輸出事業計画

※申請者名：鹿児島堀口製茶（有）、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

- ・当社は、鹿児島堀口製茶(有)で茶原料を生産し、(株)和香園で卸販売を行っている。
(県内生産者に先駆け、生葉・荒茶生産から仕上加工、輸出、販売までのサプライチェーンを構築)
- ・化学農薬に頼らない茶栽培技術確立し、輸出先国毎に異なる残留農薬基準をクリアした茶原料を製造するとともに、ASIAGAPやFSSC22000の取得により、消費者へ安心・安全な茶を提供している。
- ・平成20年から、海外との直接取引がはじまり、お茶の商品化にあたっては、顧客ニーズを把握した茶を製造し、輸出を伸ばしている。

【最近のお茶に関する状況（令和7年度の変更認定時の状況）】

国内でのリーフ茶の消費低迷は依然として続いているものの、これまでの厳しい茶業情勢を背景とした生産量の減少、海外需要を見据えた煎茶からてん茶への転換や有機栽培への転換の拡大、海外での抹茶（粉末茶）需要の急速な増加が重なり、需給バランスが変化したことで荒茶価格が上昇するなど好転傾向となっている。

【課題】

- ・製品を保管する自社冷蔵庫容量がないため外部冷蔵庫へ保管するしかなく、自社冷蔵庫から直接顧客へ製品を出荷することで、コスト低減、効率化を図る必要がある。
- ・今後は、国内販売が厳しい中、茶の需要が拡大している海外への販路を開拓するために、産地づくりから直接販売へとつながる一気通貫の商流を強化する。

【最近（R6～R7）のお茶の情勢変化に対応した新たな課題】

①需要に応じた安定供給

海外での急激な抹茶需要の拡大により、既存のてん茶工場での生産能力が不足しているほか、求められる品質に達することができていない現状がある。

②情勢変化に伴う茶産地の維持、拡大

情勢が大きく変化する中において、産地の茶生産の現状も荒茶生産主体から生葉生産主体に変化しており、産地の維持、拡大のために周辺茶生産者の受け皿が必要がある。

輸出事業計画

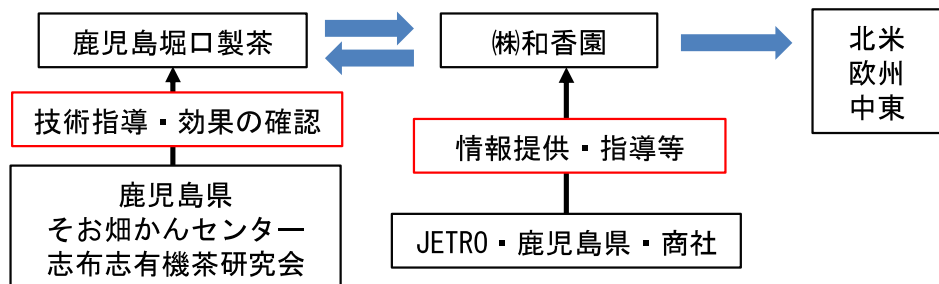
※申請者名：鹿児島堀口製茶（有）、品目：茶

2. 輸出事業計画の取組内容

- (1) 輸出向け茶の産地づくり
 - ア 化学農薬だけに頼らない茶生産
IPM栽培で実証された茶栽培技術を地域農家等と共有し、持続的な茶産地づくりに取り組む。
 - イ 有機栽培茶の生産
茶園の団地化を図り、農薬飛散防止対策等を実施し、有機栽培茶の生産安定に努める。
 - ウ 国際認証の取得
ASIAGAP、有機JAS、レインフォレスト認証を取得し、付加価値の高い商品を提案する。
 - エ てん茶の安定供給体制の構築
海外の抹茶需要を反映し、抹茶原料のてん茶を安定供給する。
- (2) 販路の開拓
 - ア 国内外商談会やオンライン商談等を通じた新たな販路先の開拓
海外バイヤー等と直接商談を行い、ニーズを把握し、抹茶を含めた商品を訴求する。
 - イ 既存顧客への新たな商品提案
当事業で取り組む有機茶等を提案し、他社と差別化した商品を販売する。
 - ウ 英語版ホームページ、ECサイトの作成
海外消費者へ商品をPRし、直接販売するためのサイトを作成する。
- (3) 新しいコールドチェーンに対応するため冷蔵施設を整備する。
- (4) 最近（R6～R7）のお茶の情勢変化に対応した新たな取組
 - ア 製茶機械のライン構成を見直すことで、不足しているてん茶工場の生産能力を補い、品質の向上を図る。
 - イ 新たに生葉生産に転換する周辺茶生産者の受け皿となり、需要に対応した輸出向けてん茶の生産拡大と産地の維持、拡大に取り組む。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

鹿児島県には技術指導等を、JETROには、海外ニーズ等の情報を提供いただきながら、効果検証を行い、(株)和香園から海外へ直接輸出できる体制を充実させる。



4. 輸出目標額

既存の顧客に加え、中東のハイグレードな顧客もターゲットとし拡販を試みる。
抹茶に加え、さまざまな茶種を提案できる強みを活かして輸出拡大を図っていく。

生産品目（茶）	現状（平成30年度）	目標年（令和8年度）
輸出額（千円）	33,000	1,100,904
輸出先国	北米・EU等	北米・中東（UAE）・EU